

## 長岡大学開学 20 周年と資格取得試験

### —PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験—

高梨 俊彦

#### はじめに

2021年度に入って、資格検定試験を主催している株式会社サーティファイより「2020年度 優秀受験団体 大学・短期大学の部 全国5位受賞」の吉報があり、サーティファイが主催する資格検定試験（Word, Excel®, PowerPoint®）において合格者を多く輩出した教育機関として表彰を受けた。

長岡大学の教育方法の一つとして、専門知識の定着と学習習慣の醸成を目的として、学生の計画的な資格取得を推奨し、資格に対応した授業を資格対応科目として実施している。また、資格対策講座の実施、資格取得奨励金制度など資格取得支援を積極的に行っている。

資格試験は情報系資格と専門資格に分けて中期計画の目標が立てられており、情報系資格取得者数の中期計画目標は年間延べ合格者150名である。この目標値が設定されてから今までこの目標値に達成することができずにいたが、今年度は順調に合格者数が増えて、2021年8月末時点で合格者132名となり、中期計画の目標達成まであと18名となった。

そして、迎えた2021年9月25日の令和3年度第2回サーティファイ PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験は、目標が達成された節目の日となった。

資格検定試験の合格者数が増えてきたのは、資格検定試験の申込者数が増えてきたことにある。本文は、私が試験監督を担当してきたサーティファイ PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験の申込者数の視点からの随想である。

#### 1. 開学 20 周年の初秋の検定日

2021年9月25日9:30長岡大学 第1コンピュータ室で令和3年度第2回サーティファイ PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験が開始された。私がこの技能認定試験の試験監督をするようになって8年目を迎える。今回の試験申込者は23名である。この技能認定試験での1回あたりの申込者数では過去最高である。かつて1回あたり1~2名の申し込みしか集まらなかったことを思い出すと、この人数増には隔世の感がある。

十年一昔ということわざがあるが、長岡大学での15年間を振り返ると5年単位くらいで様変わりしてきたように感じられる。

#### 2. 長岡大学での授業

村山学長とのご縁で、長岡大学で情報系の授業を担当し始めたのが、開学5年目の2006年である。当時履修登録して受講してきた学生は、パソコンを普通に使いこなしている学生が多かったように記

憶している。その頃はインターネット定額常時接続の普及期でもあり、学生も家庭にあったパソコンでネットサーフィンやゲームをするのが一般的になり、入学前からマウスやキーボード、ファイル操作には慣れていたのでと思う。

毎回の授業では、新しく出題される課題で使用するアプリケーションソフトの機能を解説し、実習形式で課題を作成していくという方法で進めていた。学生も各自のペースで習得して行けたので、それなりに授業運営は上手く行っていたと感じている。

## 2.1 学生が私に気付いてほしかった授業の進め方

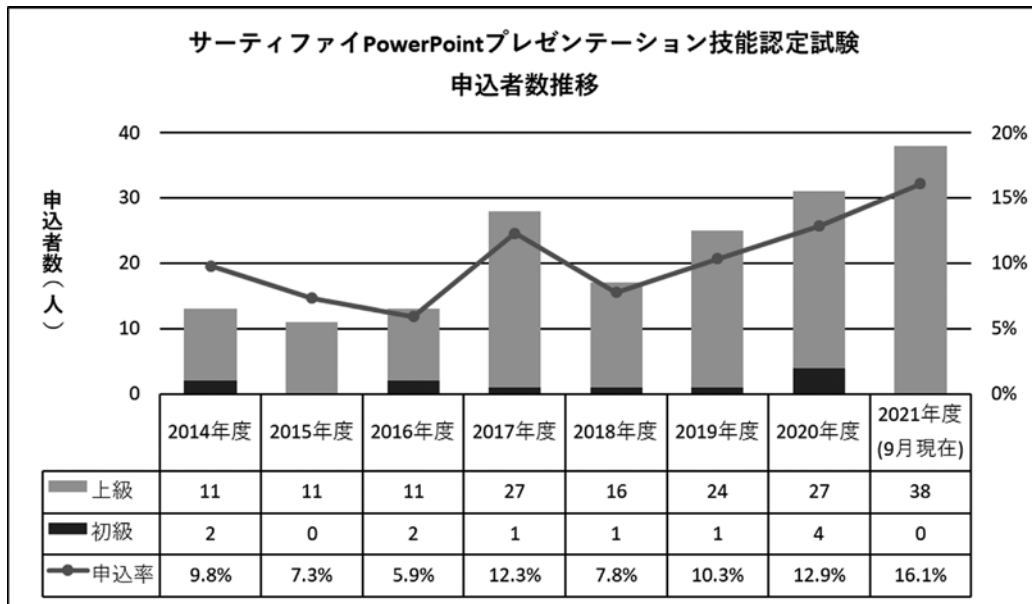
担当し始めて2～3年経過にすると、学生から「もっと分かりやすく教えてほしい」との声があり、新しい機能だけではなく、前回使用した機能でも難解なものは毎回補足説明するように対応していった。使用しているテキストはソフトウェアのバージョンに合わせて内容は多少改訂されるが、課題の量や時間配分はだいたい同じようなものであった。しかし、今度は「授業の進み方が速い」との声が聞かれるようになった。テキストを進める速度や時間配分には気を配っているつもりであったが、学生の一部が授業についてこれられない様子であった。学生が「進み方が速い」と言っていたことと、私が考えていた「授業の速度」はどうも違っていただ。学生は、設問を解答するまでのコマンドの選択から実行までの一連のマウスとキーボード操作を、私の操作を見ながら自分たちも一緒に操作して覚えていきたいということだったらしい。

世の中は移动通信システムが3Gから4Gへ、学生が持つ携帯電話もカメラ付き携帯電話端末からスマートフォンに変わり、インターネットから情報を得るのもスマートフォンがあれば十分で、入学前にパソコンに触れる機会があまりなかった学生が急速に増えていたのである。

## 2.2 学生の資格取得の意欲はコロナ禍でも衰えず

2020年、今度は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の実施で長岡大学も遠隔授業が開始されることとなった。YouTubeやZoomでの授業映像配信、Googleドライブでの授業教材配布、Googleフォームでの課題提出など、試行錯誤しながらの授業で教職員・学生も大変な期間だったと思う。マイクの電池切れで音声途絶えるなどの配信トラブルも時々あったが、映像配信することで教員側はより視覚的な説明を要求されたので、学生の求めている教員の操作を見ながら一緒に操作できる点ではとても良い効果があったように思う。グラフ1. サーティファイ PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験申込者数推移を見ても、前年の2019年度に比べて減ることはなく増加傾向を維持していた。

グラフ 1



### 3. 技能認定試験申込者数の増加の歩み

私が着任した2006年当時、サーティファイ技能認定試験の合格基準は知識試験100点満点・実技試験100点満点で、それぞれの得点が70点以上で合格であった。技能認定試験の案内をしても、学生は実技には面白みを感じても、知識試験に向けて学習するのが億劫で、知識試験で不合格になることを恐れて、技能認定試験をためらっている様子がかがえた。

2000年代後半になるとオフィスソフトの新しいバージョンから技能認定試験の合格基準が変更されることになった。新しいバージョンでの試験からは、知識試験30点満点・実技試験70点満点で知識試験と実技試験の得点を合わせて70点以上であれば合格となった。知識試験に自信がない学生でも合格する可能性が高くなったのだが、今度は学生の姿がコンピュータ自習室から消えたのである。

着任してから何年かは、放課後にコンピュータ自習室の端末を使ってレポート作成や情報検索している留学生や日本人の学生の姿をよく見かけたものだが、2010年代に入ってしばらくすると、コンピュータ自習室前の廊下を、授業を終えた夕方に通ると自習室内が真っ暗なのである。入学者数の減少で学内全体の学生数が減少したこともあるが、スマートフォンを持つ学生が大半を占めるようになって、大学の端末を利用しなくても課題作成に必要な情報を得たり、Webメールから課題提出が可能になったりしたのだと今になって思う。全体の学生数も少ないので技能認定試験の申し込みが少ない時期が続いた。

入学者数が少ない時代を乗り越え、2014年になると入学者数が増加に転じた。入学担当教職員方のご尽力のおかげである。

入学者数の増加に伴い技能認定試験の申し込みが徐々に好転していく。プレゼンテーション技能認定試験の対応科目は「プレゼンテーションソフト利用技術」で、履修年次は2年生なのであるが3年

生で履修する学生も多い。グラフ1の2017年度の認定試験申込者数が目立って多いのは、入学者数が多かった2015年度入学生(130名)の多くが3年生になってから履修し認定試験を受けたことが影響している。

プレゼンテーション技能認定試験の申し込み者数の増加は、入学者数の増加が一番の要因であると思う。企業の採用活動と同じように、大学も入試で多くの人を集めることは重要なことなのだと思う。選抜を乗り越えて入学するというプロセスが成立し、入学の合格ラインが上がったことで、入学者全体の基礎学力が上がり、勉強意欲の高い学生が増えたことは、授業態度や課題提出状況からも感じ取れる。

勉強意欲の高い学生は資格取得にも前向きで、それまで取り組んでいた検定対策講座も活況を呈するようになった。検定対策講座の当初の開設目的の一つは「2級より1級、初級より上級」といったより上の級の合格者を増やすことであったが、どちらかという補習を目的として受講する学生の対応がほとんどであった。

ところが本来の趣旨である「より上の級の合格を目指して」この対策講座を利用する学生が現れ始めたのである。別の科目の例ではあるが、履修年次の前年に対策講座を利用し2級を取得し、翌年の履修年次の授業を通して1級に合格する学生が複数名でてきたのである。今回の2021年9月25日のPowerPointプレゼンテーション技能認定試験に向けた対策講座に参加した学生の中の7名も、理解できるまで積極的に質問する学生たちであった。きっと高得点で合格してくれることであろう(※後日、合格を確認)。

学生たちの授業を通してコンピュータ操作ができるようになったという実感と、情報系の資格試験を受けたいという気持ち、多少の不安もあるが検定対策講座もあるから心配ないという安心感が、うまくかみ合ってきていると感じる。

グラフ1の申込率は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験申込者数/学生数(2年生+3年生)である。母数を2年生+3年生としたのは、主に2~3年次に技能認定試験を申し込みしているからである。ただし、入学者数ベースで計算しているため、実際の進級者数や4年生の申込者数は考慮していない、あくまでも目安である。プレゼンテーションソフト利用技術の授業の履修状況からみて、今年度は2年生+3年生の18%(42名)、来年度は20%(42名)くらいに申し込みが伸びていく可能性はある。

#### 4. 開学24周年の卒業式

来年度(2022年度)からはICT教育の一環として新入学生のパソコン必携化が決まった。今までのように大学が用意し管理された情報端末ではないので、学生の持参する機器の障害対応をしながらの授業が予想されるが、学生が「パソコンの操作が十分できる。技能認定試験を受けたい」という気持ちになって、資格試験申込者数の増加につながることを期待している。

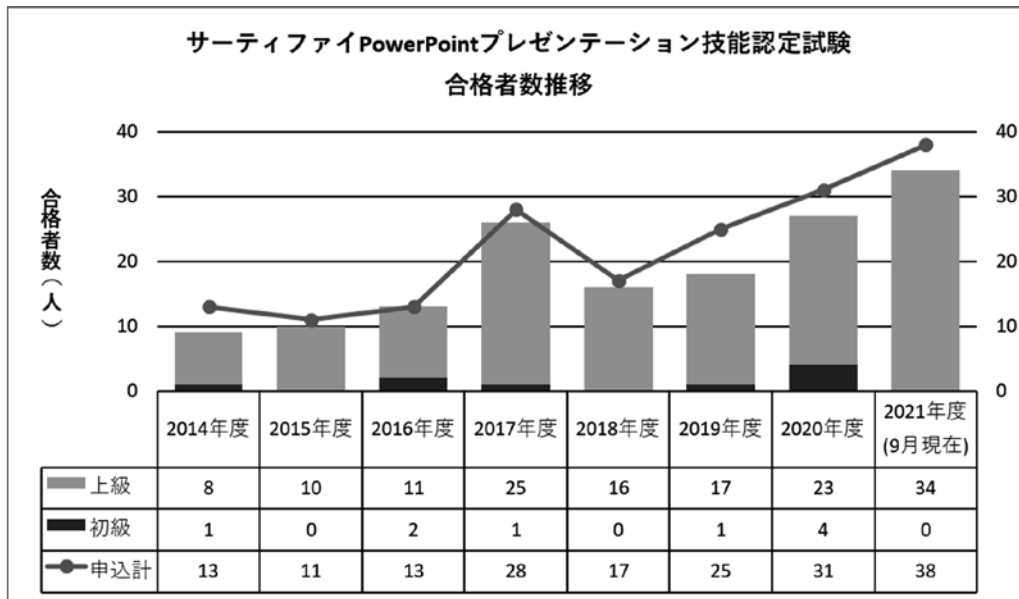
2022年度の入学生が卒業するまでに情報系の資格にどれだけ挑戦してくれるのか楽しみである。もし私とその学生たちの卒業式に出席していることがあれば、その時はどんな回想をしながら卒業生を見送るのであろうか。

おわりに

情報系資格試験の一つ「サーティファイ PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験」の申込者数の視点から、長岡大学での私と学生との関わりを交えて随想を書いたものである。本文の中で合格者数には触れていないが、合格率は高く（グラフ2）、長岡大学全体の資格試験合格者数に寄与している科目の一つである。

学問論文でないものを長岡大学研究論叢に投稿するのは憚れるが、開学20周年の記念に寄稿させて頂く。

グラフ2



【参考資料】

・長岡大学 公式ホームページ